

❖ 講演会・研究セミナー ❖

基礎研究部門 特定公募研究
「大瀛『横超直道金剛鉢』の研究」(研究代表：殿内恒)

三業惑乱と香月院深励

2024年2月20日(火)17:00~18:30
龍谷大学大宮学舎 北齋106教室



会場の様子

❖ 概 要 ❖

2024年2月20日、龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門特別公募研究「大瀛『横超直道金剛鐮』の研究」主催、芹口真結子氏（聖心女子大学現代教養学部史学科 専任講師）より「三業惑乱と香月院深励」と題して研究報告が行われた。司会は、本学法学部の能美潤史准教授が担当した。

講演者： 芹口 真結子 氏（聖心女子大学専任講師）



芹口 氏

三業惑乱は近世期最大の全国的異安心事件として真宗史・近世宗教史・近世思想史の諸分野における関心が高く、多くの研究蓄積が存在する。芹口氏は歴史学の面から、報告において三業惑乱の研究史を振り返りつつ、三業惑乱における香月院深励の動向をめぐって、様々な文献から彼が関与したとされる逸話 4 種を紹介した後、深励の自筆書簡から彼の三業帰命説に対する見解や批判についても言及した。

芹口氏によると、4 種類の逸話のいずれも論拠が示されておらず、現時点で歴史的事実と判定することは難しく、特に三業惑乱の審理などに深励が直接関与したとする逸話がなぜ

生成されたのか、検討の余地はある。同時代史料から深励の動向や言説を追うことが重要であり、幕府裁許は、寺社奉行側の審理史料等、政治的手続きに基づいた検討が必要であるという。また、三業帰命説に対する深励の解釈は、三業惑乱の展開過程等により変化した可能性も想定され、加えて東派教団内の（教学の）動向も視野に入れた丁寧な分析が求められる、と芹口氏は今後の課題を展望しつつ、報告を締めくくった。



記念写真